芝庵和言抄

鈴屋門人

市嵒孟彦藏

草菴和哥集類題目録一

春部

立春　一丁
早春霞　二
初春鶯
夕霞
檜原霞
浦霞
鶯
曙鶯
谷鶯
早春
早春氷
霞
山霞
海霞
湖霞　三
雪中鶯
朝鶯
鶯出谷
海邊早春
初春
曙霞
遠山霞
海邊霞
河邊霞
曉鶯
夕鶯
故郷鶯

野鶯　鶯為友　子日花
若菜　雪中若菜　四　野若菜
澤若菜　春雪　殘雪
山殘雪　野殘雪　餘寒
二月餘寒　梅　梅風　五
梅薫風　梅薫枕　梅薫袖
梅香薫袖　雪中梅　朝梅
夜梅　月前梅　行路梅
里梅　庭梅　閑庭梅
古宅梅　柳　六　柳風
雨中柳　柳露　春月

春曉月　春夕月　春月幽
山春月　河上春月　七　水御春月
故郷春月　春雨　春夕雨
夕春雨　夜春雨　河春雨
故郷春雨　旅春雨　歸雁
霞中歸鳥　曉歸鳥　夕歸鳥
夜歸鳥　八　殘夜歸鳥　海邊歸鳥
湖歸鳥　水御歸鳥　三月三日
曲水宴　雉　雲雀
原雲雀　鶯　梨花
花　待花　十一　待山花　十二

雨中待花　閑居待花　初花
尋花　遠尋花　覩花
花未遍　花盛　山花盛
見花　見花日暮　花下送日
花留客　花薰袖　花柳頭
折花　曉花　十三　朝花
夕花　夜花　夜思花
月照花　月前花　雨中花
雨後花　霞中花　歳宿花　十四
羇中花　山花　山路花
暮山花　山家花　閑居花

谷花　古渡花　杜花　十五
園花　里花　原花
他邊花　河邊花　檣邊花
湖邊花　海邊花　浦花
濱花　禁中花　故郷花
古寺花　名家花　庭前花
松陰花　花交松　花如雪
花忘老　十六　寄花述懷　寄花懷舊
花友　花鏡　花下鐘
花間鶯　風前花　惜花
花發風雨多　十七　花隨風　落花

水卿落花　河落花　池落花
園落花　行路落花　夕落花
惜落花　十八　遲櫻　躑躅
山躑躅　款冬　十九　河款冬
藤　水邊藤　池藤
松上藤　暮春藤　春曉　二十
春天象　春地儀　春欲暮
暮春　暮春雨　暮春鶯
暮春月　山家暮春　浦暮春
三月盡

夏部
更衣　一　朝更衣　都鄙更衣
餘花　尋餘花　二　殘花
山殘花　庭新樹　卯花
夜卯花　社卯花　里卯花
瓮　牡丹　郭公
待郭公　三　人傳郭公　郭公來遍　四
初郭公　遠郭公　曉郭公
夕郭公　夜郭公　深夜郭公
山家郭公　杜郭公　五　湖邊郭公
泊郭公　郭公遍　早苗
採早苗　山田早苗　葛飾

軒菖蒲
菱末 六
五月雨久
河五月雨
凌五月雨
螢
河邊螢 八
澤螢
蒹端螢
菱月
雨後菱月

山邊菖蒲
五月雨
五月雨晴
池五月雨 七
流五月雨
夕螢
橋邊螢
野螢
晩菱螢
山菱月 九
菱雨

夜蛍橋
曉五月雨
杜五月雨
浦五月雨
野五月雨
水邊螢
江螢
草間螢
窓蒹螢
浦菱月
菱朝

菱草
庭菱草
鶺川
水鶏
夕立風
杜蟬
夕納涼 十
泉避暑
河菱稜

野菱草
瞿麦
照射
蓮
夕立雲
夕蟬
水邊納涼
志賀幸濟菱
六月稜

風蒹菱草
籬瞿麦
曉夏照射 十
白雨
山蟬
納涼
泉
猪野菱

秋部

早秋　二
朝初秋
初秋朝雁
秦傳七夕
七夕露
七夕馬
萩
萩露
萩

早秋風
初秋風
残暑
七夕月
七夕河
七夕後朝
夜萩　三
庭萩
萩露

初秋
初秋雁　二
七夕
七夕雲
七夕橋
閏月七夕
深夜萩
庭萩風
野外萩

薄
草花 四
庭草花
霧中草花
槿
曉露
野外蟲
秋風
田家秋風 六
秋聲帶雨蟲
秋植物

月前薄
朝草花
閑居草花
月照草花
小鷹狩 五
野外
野外秋夕
海邊秋風
秋雨
秋天象
秋田

荊實
草花露
草花霧風
月照草花
露
野徑夕
秋夕
野秋風
秋夜雨
秋動物
秋

鹿
霧中鹿
夜鹿
暮山鹿
田家夕鹿
鹿交草花
山家初鳥
夕鳥 八
曉虫
月前虫
籬館鄰虫

月前鹿
朝鹿
遠鹿 七
野鹿
閑居鹿
鳥
月前初鳥
田上鳥
夕虫
籬夕虫
虫聲幽

月前鄰鹿
夕鹿
山鹿
田家鹿
鹿聲何方
朝初鳥
明月鄰鳥
虫
夜虫
閑庭虫
霧

朝霧　暮山霧　九
河上霧　湖上秋霧　河霧
渡霧　田上霧　南霧
月　八月十五夜　駒迴
九月十三夜　十　深山見月　待十五夜月
雲間月　霧間月　山家見月
月於霧　月於晴雨　霧上月
月映霧　月似鏡　月於霧
曉更月　曉月猷雲　曉月
夕月　山月　海上曉月
暮山月　深山月　月出山　十一
嶺月

谷月　園月　野月
野外月　野徑月　野霧映月
閑月　搗下月　澤月
江月　江清月近人　何月
海月　十二　海上月　海邊月
湖月　湖邊月　浦月
鳴月　渡月　故郷月
故郷歳月　十三　里月　山家月
山居月　田家月　古寺月
竹間月　竹間月　月於鷄
月於鳴　月於猪　月於蕎

月菜綱
對月思昔
伯母奔山秋
擣衣
夜擣衣
山家擣衣
鴫
菊
菊露
月菜紅葉
紅葉遍

月菜餞
月万秋友　十四
鏡山秋
月菜擣衣　十五
海辺擣衣
里擣衣　十六
鶉
月菜菊
紅葉　十七
月菜極
名不紅葉

惜月
池月秋久
宮城野
夕擣衣
遠村擣衣
擣衣幽
野鶉
菊籬月
夕紅葉
山紅葉
暮秋　十八

暮秋月
九月尽夜

冬部

初冬　一丁
風菜時雨　二
夕時雨
海辺時雨
落葉雨混
河落葉
朝霜　四
夕寒草

暮秋月
閏九月尽

九月尽

初冬時雨
暁時雨
夜時雨
落葉霜　三
杜落葉
庭落葉
時雨
朝時雨
屋上時雨
落葉霜
路落葉
殘菊
寒草
野寒草

野徑寒蕪　閑庭寒草
氷　朝氷　寒芦
江氷　瀧氷　池氷　五
湖氷　冬月　河氷
河冬月　冬月　深山冬月
寒夜月　河上冬月　湖冬月
夜千島　六　雅柴　千島
礒乎島　海辺千島　浦千島
曉氷島　七　浮千島　氷島
河氷島　夜氷島　雪中氷島
一島過寒氷　澤氷島　池氷島
鳴　綱代

夜綱代　八　閑霰　古屋霰
篠霰　竹霰　霰似玉
雪　初雪　九　山初雪
庭初雪　淺雪　積雪
曉雪　十　曙雪　朝雪
夕雪　山雪　深山雪
遠山雪　山路雪　十一　嶺雪
山月照雪　林雪　野雪
野外雪　閑雪　閑路雪
閑路曉雪　行路雪　梟上朝雪
河辺雪　海辺雪　湖雪

湖辺雪　浦雪　十二
松雪　杉雪　庭雪
夕鷺狩　炭竈　鷺狩
炉火　暁炉火　遠炭竈
佛名　雪中早梅　神楽　十三
蒙霧　蒙霧雪　山家蒙霧
歳暮　冬夜　冬動物
冬述懐

恋部

初恋　三
忍久ノ　四
忍待ノ
忍契ノ
聞恋ノ
祈神ノ
誓ノ
契後隠ノ
馴ノ
思不言ノ
忍涙ノ
忍不逢ノ
忍絶ノ
見ノ　五
祈久ノ
契ノ
契絶ノ
他ノ　六
恋ノ
手恋ノ
恋不遇ノ
聞ノ
祈ノ
祈身ノ
契久ノ
三年不見書
不逢ノ

不遇、　来不留、　待、
夕待、七　每夕待、　期待、
待空、　連夜待、　曉待、
逢、　初逢、　祈逢、八
期逢、　稀逢、　絶後逢、
後逢、　旅宿逢、　別、
期別、　曉別、九　別後會難期
後朝、　後朝切、　逢不逢、
、不遇、　、不會　立名、
歎無名、　顯、　絶顯、
絶後顯、　獸、　被獸、十

疎、　變、　約遠、
風聲催、　被妨人、　稀、
久、　旧、　遠、
近、　隔、　隔遠路、
片思　思　被忘、
恨、　恐恨、十一　互恨、
恨絶、　絶、　絶久、十二
絶不逢、　絶祈、　月来、
月来待、　月来絶、　月来別、
春、　夏、　秋夕待、
霧中、　冬、十三　曉、

夜、　不通夜、　限一夜、
名耶、　未懵里、　老、
面影、　寄月、　月初、
月恐、　月別　月增、
月恨、　雲、　風、十四
烟、　霧、　雨、
霜、　雪、　山、
杣、　野、　原、
冴、　池、十五　磯、
沼、　河、　海、
漢、　湖、　浦、

中篇四三、二

恒、　草、　恐草、
思草、　蓬、　藻、
木、十六　花、　花恐、
鳥、　小鳥、　獸、
虫、　涙、　玉、
鏡、　枕、　筵、
衣、　紙、　書、
弓、　絲、　縄、
幾、　恋天象　恋雜物

雜部

天象　一丁
天色無情談　流水浸雲根
曉　曉霞覓　海上曉雲
山　山路雲　瀧水
長河似帶　二　旅　夕の好景
夕旅　山夕旅　冥路旅
海旅　河辺旅　湖辺旅
夏旅　秋旅　月夜旅
冬旅　三　雪中旅　旅行
朝旅行　月夜旅行　旅宿

月前旅宿　旅宿夢　羇旅
羇中嵐　羇中友　羇中見月
旅泊　四　旅泊雨　旅泊夢
泊舟　舟行夜已深　海路
海路日暮　山家　山家嵐　五
山家夕嵐　山家松　山家松老　六
山家杉　山家歇　山家水
山家路　山家送年　海侶夕帰
閑居　田家　田家水
田家烟　草　簑笠満山徑
竹色不改　竹間多春　窓竹

松　松風　薄暮松風
嶺松　谷松年久　浦松
庭松　名取松　松加春　八
松色春久　雜植物　鶴
鳴鶴　庭上鶴　鶴間遐年
曉鷄　閑鷄　羇中鷄
都鳥　鼈　夕鐘
雨後眺望　海眺望　海上眺望
山家眺望　羇中眺望　海辺夕望
寄市雜　述懐　九　寄月　十
寄雲　曉　寄末

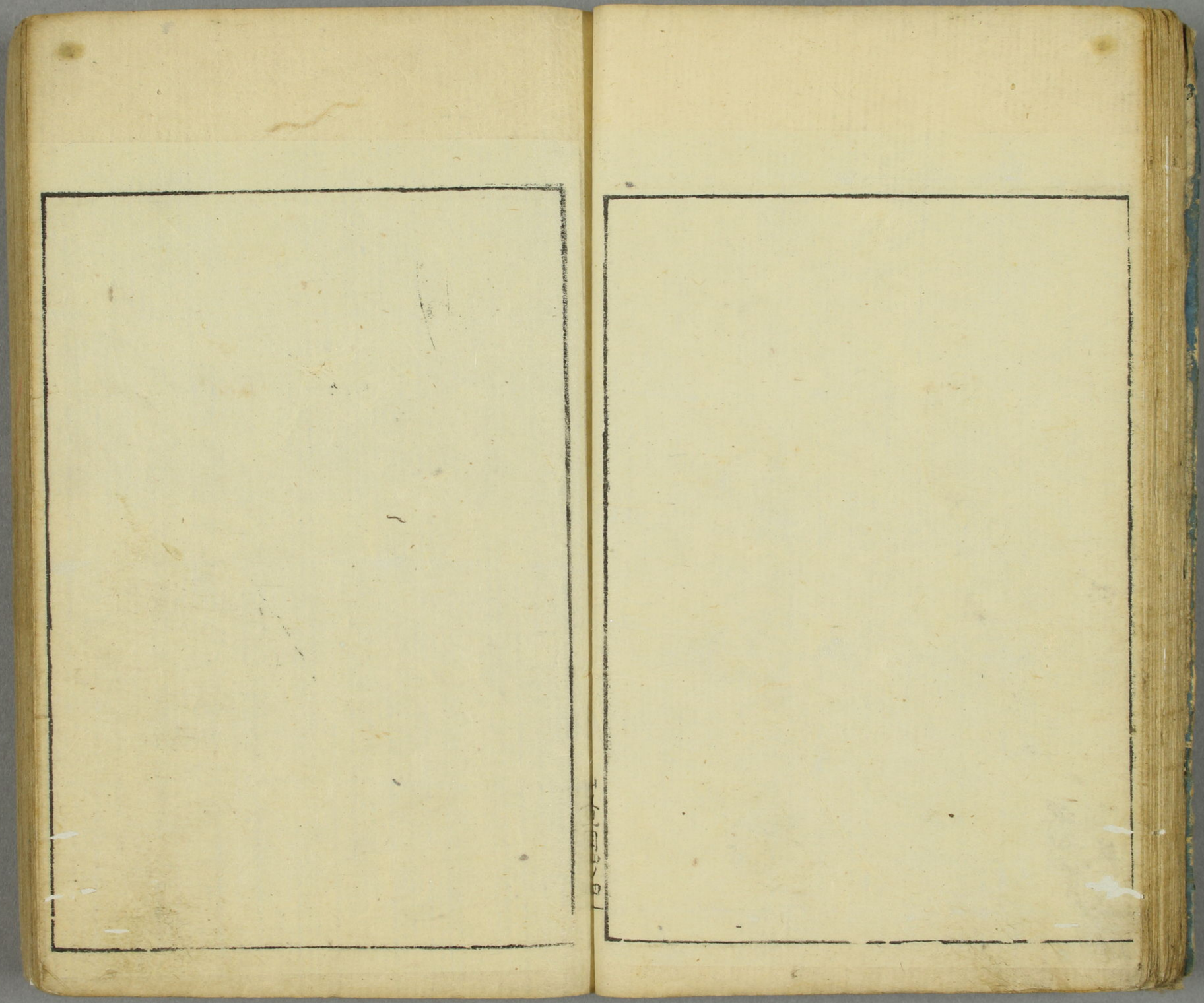
山家〻〻　〻〻佐人　老後〻〻
〻〻淚　寄淚〻　寄身〻
寄情〻　寄世〻　ま[illegible]
羈中〻　寄神〻　聽法〻
懷舊　芰懷旧　獨懷旧
寄芰懷旧　衰傷　十七　無常
芰　神祇　寄花神祇　十八
寄鏡神祇　秋神祇　社頭杉
祝　十九　寄道祝　寄浦祝
寄松祝　寄花祝　寄鏡祝
寄神祝　寄神祇祝　釋教　二十

釈教水　寄花釈教　大日
釈迦　菩薩　人界
聲聞　縁覚
色不異空空不異色　心圣　不增不滅
真實不虛　薩埵王子因縁　宏法王圣
諸宝行樹及宝羅網出微妙音譬如百千種樂
同時俱作　阿弥陀圣　二十　普觀　観圣
無三惡趣願　無量壽圣　二十一　法華經
經於千歲為於法故　提婆品
亦不覩進敗攝浣捕　安楽品　壽量品
宝樹多花果宛生所遊樂　嚴王品　二十二

植衆德本　勸発品　一切衆生悉有佛性　考
非實接故如空花等　唯識
唯有淨土一門可通入路　安楽集
識颰神飛觀難成就　往生礼賛
門〻見佛後生淨土
身相神通樂
五妙境界樂
辰市　鳴海浜　富士山
塩竈浦　雷峯落照　比良濱
難波芦
雜躰　十八

短冊
旋頭冊
連冊
句題百首
潯湘八景

物名
廻文冊　折句
誹諧



草菴和哥集類題

春部

立春

あさ霧の[illegible]川の[illegible]（大和十五三回）

我宿乃春立ぬ[illegible]

早春

[illegible]

海邊早春

[illegible]

早春霞

[illegible]

早春氷

[illegible]

初春鶯

[illegible]

霞

[illegible]

曙霞

[illegible]

夕霞

[illegible]

山霞

春歌

遠山霞

檜原霞

海霞

海邊霞

浦霞

湖霞

河邊霞

鶴邊霞

鶯

雲中鶯

曉鶯

曙鶯

朝鶯

夕鶯

谷鶯

鶯出谷

故郷鶯

野鶯

鶯為友

子日祝

若菜

雪中若菜

野若菜

澤若菜

春雪

殘雪

山殘雪

[illegible]

て[illegible]

野殘雪

餘寒

二月餘寒

梅

梅風

梅薫風

梅薫枕

梅薫袖

梅香薫袖

雪中梅
朝梅
夜梅
月前梅
行路梅
里梅
庭梅
雨庭梅
古宅梅

△そトアル方ハ選ト大人ノメニキ

柳
柳風
雨中柳
柳露
春月

春曉月

春夕月

春月幽

山春月

河上春月

小御春月

故郷春月

春雨

春夕雨

夕春雨

夜春雨

河春雨

故郷春雨

旅春雨

帰鳥

霞中帰雁

曉帰雁

夕帰雁

夜帰雁

深夜帰雁

海邊帰雁

湖帰雁

水郡陶鳥

三月三日

曲水宴

雉

雲雀

原雲雀

鶯

梨花

花

[illegible]ハ見セバヤ〳〵トヾカリ
思ヒテノ石之

[illegible]ノ方ニサレリト
本居大人ノ説ニキ

春毎の咲めきたる山乃の高の奥と花かゝり
さかりさかりを秋つきやかなりやのゝ人〻たゝ
つまもあり人のゝ春毎に梅茅花の義
さも姫のいろもあり梅花白山人〻の物なりん
咲て茅花乃日数の経なまよみ人〻の茅あり
春のつゝり茅ゝ[illegible]事も[illegible]春の花盛
さも姫毎[illegible]てうちゝ山梅ゝを花の盛なりん
後まて白ゝ[illegible]なりぬも花なりなゝ春の山城
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ん
いつゝの山[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ん

春毎ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
東山ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
後中ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

山里の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
東山ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

かへし
　この春ハよそにて見しかと花ハ今年も
東山に住みつきし心もてれのさかに比する大納言殿
れをもて侍りしか共心へ出てあらはそれとつゝましき花の
えにすまつりて
　ほのぼのと花の梢乃桜花風に吹かれて見よと也
かへし
　かつてこそ見し花の山桜よりも花の
久保二年御譲位の後氏部内裡千種なくさみ
らいて東山乃花もえ折りしやされ給ひ
九重の中の花と別てもみし山桜の花

かへし
　嵐乃後世乃花なれや昔を忍て
花のころ未満ぬへしとて侍りし 後陽成院御
御へ進侍りし
　我庵にちりくる花の事人のゆゑ
ことしても花や待らん都人久しく見ぬを嘆て
かへし
　住なれて住まじと思ふ心のこの宿
たゝ我のみや見てん花も 嵯峨の
源氏供養の時花見に侍りて
　花の香に人をよふらん花をつゝ見し山風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

待花

待山花

雨中待花

[illegible]

[illegible]

初花

尋花

遠尋花

[illegible]

花未遍

花盛

山花盛

見花

見花日暮

花下送日

花留客

花薫袖

花挿頭

折花

曉花

朝花

夕花

春花

夜恩花

月照花

月冴花

雨中花

雨後花

霞中花

旅宿花

羇中花

山花

山路花

暮山花

山家花

花乃うち寒白屋薔薇花園は人を招かぬ山家花と

宋居花

谷花

古渓花

杜花

園花

里花

原花

池邊花

河邊花

橋邊花

洲邊花

海邊花

浦花

濱花

〈ハ誤道トアルヲ用ヒベシ
本居翁ノ説ニヨル〉

禁中花
故郷花
古寺花
名不花
庭前花
松陰花
花更松
花如雪

花三老
寄花述懐

更てなほ身のきゝ事まれなれとかくまでいとゝ花のたよりにて
うつしうゑ花をたゝ山ゝ花のかゝるをもかくまでいとゝ
法のみめてめ春成りて花の春まもなくさかりの
さかりなれはとゝ山なれはやはれをもかくまでいとゝ
寄花懐舊

ものゝふのやそうちいくさ
つまりて八十乃春成りて三度のまちの花と
八十まで身いつまでていつまでかの春をおいの
西行上人住所りの雙林寺といふところにいまわむ
ものゝくさをなる
あくまでなほ春世乃春成まつ下ちきたの春の下
かの三日まあつて遥若し作りし次ちく人こゝらみ

作る所　それ

海の黄昏とかいふ俳諧の山乃桜を見物せん

極楽院の法華阿上人うへを知る方桜もらんさく

花女

花嵐

花下鐘

花間鶯

風流花

惜花

花盛風雨多　世の中かなしそれ花盛嵐はて春雨ふる

花落風　諸行あり物はそれ花ちるとかなしさうらん

落花　さそれとも春の花ふる色乃せるは（吹巻より）ねの主ぞ

桜花　桜花の盛りもはなはだ多ければ人は皆

桜人　桜人の色もまた山里乃春の雨ふりまさりぬ

桜の雪　桜の雪は花の雪ふる

桜の風　桜の風の雪ふる花の雪ふる

桜の雨　桜の雨ふる

春雨　春雨ふる

春の雨　春の雨ふる

春の雨ふる　春の雨ふる

水郷落花
河落花
池落花
園落花
行路落花
夕落花

[illegible]

情落花

青蓮院宮まいりてまた蓮法寺のまへをとおりつゝ

雨はらはらと花の落つるを

宮四かの内

[illegible]

吳山手位作りしころ四月大納言中将花ぞろへ後

[illegible]

遲桜

鄭躅

山鄭躅

歌枕

河歌枕

藤

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水邊藤

池藤

松上藤

[illegible]

△バハヒの字ー誤ルベシ
本居翁ノ考ヘモキ

春曉

春天象

春地儀

春欲暮

暮春

暮春雨

暮春鶯

暮春月

[illegible]

山家暮春　物ゝ月日も立ぬ山屋に花を限りの春を暮ぬる

浦暮春　中〻の海や春ぶるる酒舟のゆり寄せ立てとゝまるなれば

三月盡　ゆくゝとからをある岸の夕附日おるゝ花を春のゆくへ

名ゝ山ゝ鳴まねくゝ春ゆくを名ゝ山ゝ鳴まねくゝ春ゆくを

いつゝたりはきゝぬ春ゆくゝ其ゝ山ゝ鳴まねくゝ別れん

草菴和歌集類題

芰部

更衣

朝更衣

都鄙更衣

餘花

尋餘花

殘花

山殘花

庭新樹

卯花

夜卯花

社卯花

里開花

葵

牡丹

鄭公

[illegible]

侍郎公

人傳郭公

郭公系遍

初郭公

遠郭公

暁郭公

夕郭公

夜郭公

山の端も[illegible]横の[illegible]時鳥[illegible]

[illegible]時鳥[illegible]

月[illegible]山の[illegible]

[illegible]の枕[illegible]山郭公

時鳥[illegible]

小夜[illegible]郭公[illegible]山[illegible]

月影の[illegible]時鳥[illegible]

深夜郭公

[illegible]人の[illegible]時鳥[illegible]

山家郭公

[illegible]山の[illegible]

[illegible]

[illegible]山出てや杜鵑[illegible]

杜郭公

湖邉郭公

泊郭公

郭公遍

早苗

時鳥[illegible]

[illegible]山鵑[illegible]

[illegible]の[illegible]時鳥山[illegible]

[illegible]の枕[illegible]

[illegible]

[illegible]早苗[illegible]

[illegible]早苗[illegible]松の葉[illegible]山の[illegible]

[illegible]

[illegible]山[illegible]の田[illegible]早苗[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]早苗[illegible]田子[illegible]

採早苗

山田早苗

菖蒲

軒菖蒲

水邊菖蒲

夜照橋

汲くも神代へめぐりて深田の早苗とりし乙女子
遠近乃諸ともに小田に秋をまちて早苗とる里人
住よし神のまつりに早苗とりて神の乙女子早苗とる也
宮人いかなる所にかありとはしらぬ門田に早苗とる也
門江のあやめの葉はながきやなぎの影にして宝也抜
あやめ草のさや中く花は草をもたた葺にかけん
あやめ草門ごとにふきて端午の節の枕にかけて縞
とるあやめ草ふきて門かけの軒の草乃枕に
いかにもあやめ草の根をかけしもてあそびしなり
なにはのかりもあやめをひきてあやめ草の池
里にも橋のかけはしをあやめてたなばたの

夏木

五月雨

五月雨の降りくらしたる橋の空
五月雨もやむ花橘乃香に我もなきにけり
まつ人をまちてかひなき五月雨の空に消るもの雲の
花のころ也山の朝日影八十氏川のさみだれのころ
枕はさみだれもなきの川目数まで五月雨のころ
宇治の川波もいつも筏の根の上も五月雨の比
五月雨の夜の継橋絶えても橋の上の舟
よる人もなき五月雨のあまりになりて岸角
すまゐや人もくだりて水の深き橋の本の板
さらぬだにたえまがちなる二条井繩てまめかわ
あまつ隣情かたり五月雨乃晴るまを待ちつつ見れ

加藤

曉五月雨
五月雨久
五月雨晴
松五月雨
河五月雨

池五月雨
浦五月雨
湊五月雨
瀧五月雨
野五月雨
蛍

夕蛍

小過蛍

河過蛍

稿過蛍

江蛍

澤蛍

鄙蛍

草間蛍

蓑端蛍
暁蓑蛍
窓前蛍
蓑月

山蓑月
浦蓑月
雨後蓑月
蓑雨
夜朝
夜草

野茨草

風茅茨草

庭茨草

瞿麦

雛瞿麦

鶏川

蝋射

曉更思射

水鶏

蓮

白雨

夕立風

夕立雲

山蟬

杜蟬

夕蟬

納涼

夕納涼

水邊納涼

泉

泉避暑

定海傳教新学院の陰より瀬のあなたの名和を経
まりまさ〻人〻くふ所ゝを作り
志賀幸満翁　みそまさる名をとどめてさ[illegible]
猪野翁　[illegible]
河翁　[illegible]
六月稿

草菴和哥集類題

秋部

早秋

早秋風

初秋

朝初秋

初秋風

初秋霧

初秋朝霧

殘暑

七夕

兼待七夕

七夕月

七夕雲

七夕嶋

七夕河

七夕橋

七夕島

七夕後朝

望月七夕

萩

夜萩

深草萩

萩家

庭萩

庭萩風

萩

萩家

野外萩　小萩原を野に萩を植へ[illegible]

右原を[illegible]

[illegible]

[illegible]

薄

[illegible]

月前薄

刈萱

草花

草花露

朝草花

草花露

庭草花

宗居草花

草花靡風

霧中草花

月前草花

月照草花

槿

小鷹狩

露

曉露

野露

野後露

野外露

秋夕

秋風

海邊秋風

野秋風

田家秋風

秋雨

秋夜雨

秋色帯雨嘉

秋天象

秋動物

秋植物

秋

秋

庶

月前鹿

月前聞鹿

霧中鹿

朝鹿

夕鹿

夜鹿

遠鹿

山鹿

秋東山里

暮山鹿

野鹿

田家鹿

田家夕鹿

閑居鹿

秦色何方

秦家草花

鳴

朝初鳴

山家初鳴

月赤初鳴

明月鶏鳴

夕鳴

田上鳴

虫

暁虫

夕虫

夜虫

月赤虫

深き夜の床の草葉ハ埋れて虫のねかくしあひの月影

叢夕虫
草の名のしられぬ花にまつ虫の声をたつねて秋そくれゆく

閑庭虫
秋ふかく人も問こぬ庭の浅茅生に虫の音のみそ

旅館聞虫
かりねする草の枕に露ちりて枕に近き虫の音そする

虫声幽
松むしの声はかすかに聞ゆなり草の中にもいかにしのふや

秋の末によみける
あさぢ原尾花の下葉にすたく虫の声
まてしはし秋の日影の移るまに

霧
よもすから吹つる風の音絶て朝霧深き庭の景色
槙の葉にたちのほりける霧はれて宇治の川浪

朝霞
今そ見る朝霞たちわたる深山の秋の霞

暮山霞
伏見山夕暮に葛の葉の…
河霧
あらしふく宇治の川波…
隅田川あさ瀬の波に渡りかね…
山川の水の流れにたちかへる秋の霧
河上霞
川風の波にたつ霞…
湖上秋霧
さゝなみや志賀の浦わの…
浦霞
夕暮の…浦
渡霧
いつくより…秋の夕霧
田上霞
…田の…秋の夕霞
駒迎
…
月
かゝる山松の木の間に…月

八月十五夜

待十五夜月

九月十三夜

深山見月

山家見月

雲間月

霧間月

霧上月

月前霧

月前雨

月前露

月映露

月似鏡
暁月
暁更月
暁月猶雲
海上暁月
夕月
山月

月出山
暮山月
深山月

夜月
谷月
野月
野外月
野経月

野霧晴月

朝月

橋下月

澤月

江月

江清月近人

河月

海月

海上月

海邊月

湖月

湖辺月

にほの海に底さへ清く沖つ月の光や流れよるらん
堤やねさめのとこの人夜杖を枕にて月をこそ見れ

浦月

あかしの浦の浦波名にしおひて月よりよるの秋の浦風
月みてもちかき須磨にもあかしにもいさやまつらん浦嶋
月影に煙をたつる海士人や我身を浦とおもひしるらん

鴻月

さそはれてつなぐ浦の夜半の月影にさわぐもあまの釣舟
ひとりて風をいとふ舟人の月をもちかきよるの網代
明て後のはるかにたなびくよその浦の霞の浦波にしほたれ

渡月

秋風の吹わたる時て波まよりあらはれ出る小舟の月影
舟とめて渡りの清き時て浪のよるそはなれぬ月

故郷月

月に猶すみなれし里はあれまくはふりにし郷の軒の宿のはけ

旅ゝ残月

里は遠き峰の木の間の月影に旅の行末を見るゝ夜
さらに旅の夜の空の光もまちて旅ねの露の月ならん

里月

月に来て枝もさす人や更級の里をもとめて秋をしらん
雲をわけて里の川さらにながるゝ山陰の月の里に澄む月影
さらりや旅の旅路を遠くあはれにわたる深き月やすむらん

山家月

木のもとに見るもの山の月の夜すがら月やすむ山のはるかの世をさらん

山居月

苔ふかき庵の軒にすみなれて月の影をも山にむかへて秋やしる

田家月

秋門の早田にあまる稲葉の露の夜は深き軒の月を見る
よるもかる田面の庵にかくれても月はよもすがら軒の外に

古寺月

秋田の稲葉のよる深き霧のまがきに月の影ぞ見る
古寺のいにしへたれかすみなれし鐘のいらかの古き秋の月

窓間月　ちらし書く文字まで見ゆる窓の戸に すゝしく清き月かげ

竹間月　秋風はやゝ身にしみて竹のはの たえまもりくる月の影かな

月前鶏　小松原月にほのめく鶏の声 はや夜あけぬと告やしぬらん

月前鴫　月やどる沢田の面に立鴫の はねかくかずもみえてさやけき

月前猪　秋風は猪の床のいかならん 臥ゐの月の影にかくれて

月前篝　月影を深山の鵜飼さそふまて 篝火おしき海人のはたらき

月前網　月影はみなそこまでも網代木に 網さしおろす舟のあたりや

月前筏　さすさをも筏の床は浮ぬべし 月に小舟の床もあれこそ

惜月　へだてぬを惜める夜半の月影を やよいしばしと誰か止めん

對月思昔　さながらに月やむかしの影ならん 昔かはらぬ世のならひかな

月万秋友　あきらけき君か万代の秋ことに 思ひそへつゝ秋の夜の月

池月秋久　池水のときはかきはに万代を すむへき影の宿る月かな

伯母棄山秋　うきはなく あはれ姨捨の月のみや 山の月なかりせは

九月十三夜姨捨山にて

こよひもまた姨捨山に月を見て 数さへことに澄める月かな

鏡山秋　細波や山はかゝみのかけなれは うつる紅葉も月も宿れる

宮城野　三野の月の光にかゝるまで おのか錦を見るや宮城野

元盛さそひ行に江の中嶋の月に侍りて

宇治の橋より近き江の松の木間よりまつ出る月

難波まてまかりしに

あはれなる難波の浦やねさめして 遠き潮路に月をなかむる

きんやといつてくつはあるの陰よりさしこむ月の影に
更あるうたをのこりなくて仁和寺廣寒こうつてく
秋のこころをそなへて仁和寺廣寒こうつてく
山さと仁月のこころもをしあてやそなのあるかな
名月の題目乃ぬりつゆ月のうしろこの月をそなへ
つくりきてくれかしと時こうをかし

拾衣

侍もの心ぬまの秋のうちなるこの月は廻きてよりん
屋人いなかつと信濃乃和山の秋や東京東京
萩の葉つゆあるは花も秋風の吹つるてやあるは乃
屋いなかつて秋風をこそ春とも伏乃の葉よりかつや
あきのゝ雅俗五体の三体のあるかつや

月前拾衣

ゆつ人いなかつ山の秋乃はかりくこの葉よりつ
なかつ人乃月の山やあるの月をつかつもきこの
信濃や路とかつ屋の秋風よりなつ乃秋のうつ
あきこそ秋の月このきこそ東武武月の新乃
うつきこそ秋の月の月の秋乃雅のさか
行人乃月の山やあるの月をつかつもきこの
さてなるやあるこの信濃乃東京東京の花乃
秋きこそ山れつ吹てあるつきこそ
きこは山きこ東京の秋風はこの月の
あきこ秋の月乃月をつかつ月をこの月
五つ月こ月の月のこつ月きこ秋こ山の月をこつ

夕擣衣

夜擣衣

海辺擣衣

遠村擣衣

山家擣衣

里擣衣

擣衣鴫

鶉

野鶉

菊

月前菊

菊雜月

菊露

康安元年九月内裏にて聖護院宮等星王法を
[illegible]重陽の日經深法中許[illegible]
[illegible]菊もて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

紅葉

[illegible]

夕紅葉

月前紅葉

月前極

山紅葉

紅葉通　里らくらんてし附合は西の王の錦の山吹も波濤を送
名所紅葉　染て行せうす附合のはてにも京を小倉の山乃紅葉
山つゞきもみぢ拾ふへつく相模守乃もとへおくり給ふに
色この紅葉を給ふし染をよし狂ふてなれ
うつ世し
紅葉まも錦乃若葉に落もとに深き紅葉
飛鳥白髪なにつきの雲ぎれにもちの枝につたなく
よのつゆのまにまに給ふし深く染てし紅葉哉
江かゝし
つゆまもの血をいまに紅葉いはゐの高き竹
そのさくらの山をさし行しよはつゆのかねをきかれて庵

宝まへて行しか年く紅葉し出たる錦をそなへて
よつの山もしや家は筆をそんじたなのまちてうつ
秋乃東て名雑波に行く先に行者神主園をなすらんも
さく行かついそり
秋風に吹きてくや紅葉の生田の秋は色もなし
うへし
紅葉をる生田の法は嵐だに松に枝ならず
暮秋
何となく情知るかな秋のかぜ紅葉を
路まかす霜朝をても物まの日影に雅
本はほゝも田の日影をへて附る気秋のせ
暮秋月
老の風のもとの花のよのせの露

暮秋意

行秋乃末路の浅茅霜枯てさまよふ虫の音そ
あはれて秋さへ霜に月影も寒さのみうつろふ影
立田の紅葉さへ染まる頃月の影も秋やくれぬらん
散へは落葉よりも秋の錦の淡乃色よはる秋の夜
よしさらば秋物うき秋の暮の声も秋の暮に
かくて今宵なき毎の暮に日数つもりて秋の別

九月尽

九月尽哀

まだ何ても立ち出でや行秋のおくれさらん

閏九月尽

唐にも名残をしへて長月の今宵秋を惜む
九月つもりて日数重ねて
なほ名残は秋の末の色を見て秋は今宵と限られ

草庵和歌集類題

冬部

初冬

いつしかと秋をおくりて山里のならひは時雨はまちやらん

山ハさればみ山の松のこずゑにもまつ吹そむる木枯の風

まつさそふ木の葉のなかりけり神無月ともしらぬ山かな

初冬時雨

冬きぬとおもふねざめのかた枕里わかぬ時雨のはじめならん

おのがすむかたはそこともしら山風のふくにまかせてふる時雨かな

時雨

まつもまた里こそかはれ神無月あはれ時雨のあとのなごりに

何國まで山を出しても秋くれのなごりをしたふ時雨なるらん

ふるさとのかたみのもとにくもる時雨山辺やたなびきなまし

秋すぎしきのふの山のこずゑまで時雨にもるる木々のもみぢは

さそはれしもみぢの色を時雨ゆく杉の下枝の常盤なりけり

をちかたの人もおとせぬ時雨かな里の軒端のかよひ路

あはれしる人はなき身の時雨ゆゑ荒れたる宿のしのぶ草かな

神無月あはれしのぶの衣手に雨ふる夜半の時雨なるらん

神無月の風なき暮に時雨きてあはれをしるは宿の紅葉の色かはらなし

大原路までまかりけるに

さえくるる松に時雨は小倉山おもふ事さへはれやらぬかな

風前時雨

山里の嵐にたへてはるる間もなく時雨のしずくに袖ぬらすなり

暁時雨

うき身をばおもひもあへぬ有明の月にきこゆる村雨の音

朝時雨

いつも見る峯のあけぼの雲はれてたが軒ちかく降時雨かな

夕時雨

かきくもり降とはみえで山の端の時雨に過て夕日さすらん

夜時雨

屋上時雨

海邊時雨

落葉

落葉霜

落葉雨混

杜落葉
路落葉
河落葉

勸學院の傳子より川の岸をまもる山の下葉紅葉の濃紫なるが白へ赤へ黄へ

庭落葉

殘菊

朝霜
樹霜
寒草

夕寒草

杜寒草
野寒草
野徑寒草
閑庭寒草
寒声

氷

朝氷

池氷
江氷
澤氷
河氷
湖氷

冬月

深山冬月

河冬月

河上冬月

湖冬月

寒夜月

推柴

千島

夜千島

海邊千島

浦千島

磯千鳥

浮千鳥

性遵時をうしなひてわれ人の白首をいたづらに[illegible]

水鳥

[illegible]

暁水鳥

夜水鳥

雪中水鳥

河水鳥

澤水鳥

池水鳥

一鳥過宮水

鳴

網代

夜網代

角霰

古屋霰

篠霰

竹霰

霰似玉

雪

降雪ハあさの雨の様の代ばあハ掛ふるの風ニ
雪積り積る事ハ咲ニ似りも白ろ色枝ニ飛るさまん
とるよりも雪降とてみ所ら出なき森ニ花咲尺ニ分
はまそ飛ヘつもなかりか山風の雪吹ちらふ松の下を
ふきつ飛つもりとも也なく出晴て雪ハ又ありハ日数ハ分
並ヘ降ら降積りも方山本の様あるか歳の白雪
雪あるき証それ作秋らる生国の秋ま人尚錦

雪乃あし多茶実白なるか

ゆき人飛をかりて来るとつまれつるの底の白雪

ゆう暮し

かくらか深き情ハよきて雪のふかゆ世の中話やなれん

雪乃ふり積りしニ深ふ芽ろあちか村ゆきて行侍し

ゆき見りしふん松もふり雪のあなさきて社数を分れ

ゆう暮し

降雪ニ山の里の路進ミてハらくたか皆ほやと御れん

東山ニ住侍しろ雪の頃花山院入道太納言の許ニ

拾てはなまて庭ハ淋しき山里ハ冬はきの白雪

果無し

よの事あさ居るもとハ雪深き山路ハ飛や淋しき道

折あ頃に六代中院乃跡を継つて少将ニ任なか侍
ころ雪のあしさまふりつもり侍し

白雪の跡をたえて三笠山なききぬ人道ニ深き

加茂

初雪
山初雪
庭初雪
浅雪
積雪

暁雪
曙山雪
朝雪
夕雪
山雪
深山雪
遠山雪

比一座大原の冥加乃出現をゝ仰ぎ奉り　ことの
ゝゝ及ぶ毎ゝ[illegible]
ことあるべしとて仰ぎ給ふ
天皇ゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
殊ゝ[illegible]
ゝのきゝ[illegible]
ゝ[illegible]

大原山人

遠山雪

山路雪
嶺雪
山月照雪
林雪
野雪
野外雪
廊雪
廊路雪
廊路曉雪
行路雪

橋上朝雪

河邊雪

海邊雪

湖雪

湖邊雪

浦雪

庭雪

松雪

杉雪

鷹狩

夕鷹狩

炭竈

遠炭竈

炉火

暁炉火

神楽

佛名

雪中早梅

早梅薫風

十月こゝの梅花さく

頼遠のもとにて

歳暮

歲暮雪

山家歲暮

歎歲暮

冬夜

冬動物

冬述懷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋部

[illegible]

[illegible]

初悉

思不言悉

忍悉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恐不達恋
恐不遇恋
恐数恋
恐絶恋

聞恋
聞拝恋

見恋
祈恋

祈神恋
祈久恋
祈身恋
誓恋
契恋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不遇恋

来不留恋

待恋

夕待恋

毎夕待恋

契待恋

待空恋

連夜待恋
暁待恋
逢恋
初逢恋

新逢恋
契逢恋
稀逢恋
絶後逢恋
変逢恋

旅宿逢恋

別恋

[illegible]

契別恋

暁別恋

別後會難期

後朝恋

後朝切恋

逢不遇恋

不會

[illegible]

不遷

立名恋

歌無名恋

題恋

絶題恋

絶後題恋

歌恋

被歌恋

疎恋

寝恋

釣遠恋

風声催恋

被妨人恋

稀恋

久恋

旧恋

遠恋

近恋

隔恋

隔遠路恋

片思

思

被忘恋

恨忘

忍恨忘

互恨恋

恨絶恋

絶恋

絶久恋

絶不逢恋

絶祈恋

月前恋
月前待恋
月前絶恋
月前別恋
春恋
夏恋
秋夕待恋
霧中恋

冬恋
暁恋
夜恋
不通夜恋
限一夜恋
名取恋
木幡里恋

老恋
面影恋
寄月恋
寄月初恋
寄月忍恋
寄月別恋
寄月増恋
寄月恨恋
寄雲恋

寄風恋
寄煙恋
寄霧恋
寄雨恋

寄霜恋

寄雪恋

寄山恋

寄松恋

寄野恋

寄原恋

寄嵐恋

寄池恋

寄瀧恋

寄沼恋

寄河恋

寄海恋

寄湊恋

寄湖恋

寄庵恋

寄垣恋

寄草恋

寄恋草恋

寄思草恋

寄霞恋

寄漁恋

寄木恋

寄花恋

寄花恋恋

寄鳥恋

寄水鳥恋

寄獣恋

寄虫恋

寄腹恋
寄玉恋
寄鏡恋
寄枕恋
寄莚恋
寄衣恋

寄紙恋
寄書恋
寄弓恋
寄絲恋
寄魂恋
寄筏恋
恋天象
恋雑物

忍菴和尚集類題

雜奇

天象

天色無情談　仏なきむかしきをかろぶ人いまとなりて毎年は

流水浸の根　かきのやうなる日の中にて高うまきの山の

曉

[illegible]

曉霞覚　[illegible]

海上曉雲　山端より[illegible]

山

山路雲

[illegible]

[illegible]

山深き[illegible]

出河遠帯

[illegible]

旅

[illegible]

無題

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕旅
山夕旅
冥路旅
海旅
河邊旅
湖邊旅
萩旅
秋旅
月前旅

冬旅
雪中旅

二条前宰相義濃國へ下向の時

旅行

朝旅行

月前旅行

旅宿

月前旅宿

旅宿夢

霸旅

霸中嵐

霸中友

霸中見月

旅泊

旅泊雨

旅泊夢

泊舟

舟行夜已深

海路

海辺日暮

山家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家名嵐
山家松

[illegible]

山家松老
山家杉
山家獸
山家水
山家路

春日社神木こやの山は遷宮のくらゐ二象八道大祇
云安日法神名号は一字なるかちく奇なり。

[illegible]

山家秋　瑠璃の池の[illegible]

[illegible]

山家送年　[illegible]

閑居　[illegible]

[illegible]

世[illegible]

[illegible]

仁和寺の[illegible]

[illegible]

田家

田家水

小山田の[illegible]

[illegible]

田家烟

草

蒼苔滿山徑

竹色不改

竹報多春

窓竹

松

松風

薄雪松風

嶺松

谷松年久

浦松

庭松

名取松

松初春

松色春久

雜植物

鶴

鳴鶴

庭上鶴

鶴初遐年

曉鶏

閑鶏

霸中鶏
都鳥
鼈
夕鐘
雨後眺望
海眺望
海上眺望
山家眺望
霸中眺望
海邊夕望
寄市雑

述懐

七十の[illegible]

人[illegible]

山深く[illegible]

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

身一いきをしても[illegible]

彰[illegible]

[illegible]

性融　[illegible]

[illegible]

寄月述懷

寄雲述懷

曉述懷

寄木述懷

山家述懷

述懷依人

老後述懷

述懷流

寄深述懷

寄身述懷

寄情述懷

寄世述懷

霸中述懷

寄神述懷

聽法述懷

懷舊

獨懐舊　かりそめなりけるさまの世の世に貴賤老人中にかの
寄芳懐旧　うかりけるみもとにもたてまつる玉の巻にかの歌いまに至るまで
民部卿藤原の定家朝臣の撰ばれたる奏覧をとどめられ
ぬ　延文元年七月三十三日書写畢
しも我が歌集の事仰下されかしこまり仏事
の次なる人と申すべき作りしを懐旧の歌
なるべきの由申されたりしかども
民部卿かの歌ども後鳥羽院の御時
数のごとく公の上もいまだ北の方の
我が世なる藤の裏の下出葉歌のなかにかの
後宮多院崩御の後いかにかかりしかば
ようの侍公有祇　ひとつ流なりけるを
寄せ神の後をとり作りしなり
民部卿かの人世に後鳥羽院の御時
しかれば二条大納言の者共をして作らしめかの
もしほ草かの歌ども
この道に帰依作りし藤原宗基三善為宗身
まもりて後鳥羽院の御時作り侍りし
ようの後をとりて後鳥羽院の御時
古来上人　経空入滅の後宮九月廿九日
ようの後宮廿日数一夜

西行上人法の双林寺を住侍しこと法二月十六日入こと
素こと佛事行しこと法師のむこと
昔桂又寺のこと有しの二月乃春花侍
同制西行上人自筆の山の系をつくこと侍法
勝寺住侍の先祖なこと法師又料紙の様
なこと也のこと法師こと書こと侍法人を侍しを
のれくまを月侍しし
烟こと寺部遍のり家入せこと法者こと
給三位殿のいこと出侍しこと法月をこと
去月の五日乃月いかりやまあ毎日を歌被
同法師のもとこと法あこと加茂のこと有まつりこと山子こと大

納言平時忠卿侍
去帳の世乃こと法こと仮者形ぬ名影色
こと世こと影まこと也も世こと法こと法ぬ僧の家
同人深服の法の者こと侍しし
ぬき様こと法の法こと法こと世の様こと法
こと
童こと法深かこと毛かこと乃の法こと法こと
いこの日数四こと人こと加こと法母儀仏京極旧法こと
のこと仏伝こと氏こと千内宰相中ぬのこと人こと侍
こと
こと部の法かあこと文ぬむこと法世こと五中川の五
こと
先師仁巻法市法寺住法ぬこと侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うへのうく慶さの法師許より作

[illegible]

[illegible]

雪の[illegible]日毋乃[illegible]

[illegible]

白雪の[illegible]

[illegible]子のそうふ書状あり[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三河寺高宗[illegible]

[illegible]

祝部行氏宿禰三十[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

等持院殿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]七日[illegible]

[illegible]

九月十三夜面々作り故おまへの月のくまなく侍りしかば
つきなく今はかぎりとて作り侍りしかば
大内の月や三ヶ月とて三ヶ月殿歌人にまさる
御殿の真重子是也 八月十五夜より
月ごとのくもりなくて秋の月殿と人々
さとりし侍りし
金沢殿より月の比の成しかば
座の菊を取あつめ人々
この歌は物語の人々まとゐしてあり一人紫のきぬ
なをのまさく心のまに
後日又西園寺殿より
源光政 松山義人 月さかりに父光胤 廿人一首のなかに
とゐてまゐらせ侍りしかば
おなじ世乃類稀第別称なるのやうなる花
浄土人入滅の後九月廿日の日作侍りし
秋をこそ惜しみ人の世乃なかき別をいかに思ふ
人の世乃世別をとゝまる歌
三品親王新大納言なくなりし秋のこと
ひとりもこゝへよりて人の墓
よさかりなりし作りし
月作りし
歌をもとゝ月世乃行末人き山なる

[illegible]

二條氏の宮[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

衰傷

無常

[illegible]

夢

神祇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

往古も幾代もかの神山のすがたは鶴の翼羽の[illegible]
[illegible]代の為
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

延文元年日吉祭法[illegible]
行親宿禰[illegible]
[illegible]

行親宿禰

日吉聖真子の社[illegible]神代の[illegible]
[illegible]

寄花神祇
寄鏡神祇

二条入道太政公續[illegible]載奏院の後行[illegible]

[illegible]

秩神祇　この秩の神のいきまさしの者ども乃[illegible]
[illegible]乃社[illegible]言志一首氏[illegible]時
[illegible]

社頭杉　[illegible]

三鴻社奉納　いにしへの[illegible]
神主[illegible]十二月廿八日大系院[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

祝

[illegible]

近世[illegible]三首

三宝院[illegible]

[illegible]

寄道祝

[illegible]

寄浦祝

寄松祝

寄花祝

寄鏡祝

寄神祝

寄神祇祝

勅撰歌の後法師の人と寄せて作りし

釋教

人をはぐくみなしたまふ法の力あらたなる

西へ行く法の門をたのみきて

後世乃花の道に入るものはたれ

こころもとなく思ひ侘ぬ

思ひ出ぬ

愛のうちに人の執着乃ありてこそ

ほとけの御心にかなふ

執着乃

寄花釋教

なのりそめ法の花の色香にそめられて

なのりそめ花の色香に染られ

大日
釋迦
菩薩
人界
聲聞
緣覺
色不異空空不異色　般若心經
不增不減
真實不虛
飯勝王經　薩王子因緣

他化自在天
諸寶行樹及寶羅網出微妙音譬如百千種樂同
時俱作　阿彌陀經
宝池
普觀　觀經
[illegible]

無三悪趣願　無量壽経

法華経　法華経の名称

経於手案為衆法故　授嘆品

亦不親近畋猟漁捕　安楽行品

壽量品

宝樹多花菓充牣遊楽　同

厳王品　[illegible]

植衆徳本　勧發品

一切衆生悉有佛性　未考

唯識論　非實接故如空花等

安樂集　唯有浄土一門可通入路

識賜神悉観雖成就　往生礼讃

門々見仏後生浄土

身相神通楽

五妙境界楽

妙音菩薩の曼荼羅を作らく

如法経書作り対懺法悲歎辞を作らく

懺悔の風行わるる時の洞行者の名僧と共に

浄土三部経書くに舞楽を作り作り作り保中

納言具行仏いまさず少将と戸侍と陵王法華経

久久日戸侍

山階の人民貴賤も西を向かるるとうら

仏

仏舎利を拝ませ

仏

九月十二日の法会仏行の人民貴賤

戸々

[illegible]

法隆寺観音院[illegible]

[illegible]

世の[illegible]

○

後宇多院の[illegible]

[illegible]

中[illegible]

[illegible]

[illegible]

新[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢の海の酒を勧められあるべき光の玉なんど

世勢の[illegible]八千首奇[illegible]

[illegible]

いつの[illegible]の玉なんさいはあも海の[illegible]

小宰相局逢朝の女小[illegible]

[illegible]

乃[illegible]

[illegible]

民[illegible]宰相中将[illegible]信者社を[illegible]

不[illegible]

和[illegible]

[illegible]

和[illegible]

[illegible]

将軍家草菴集[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛耀僧都の詠を思ひ出て

[illegible]

○

比叡山乃中堂[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

辰市

鳴海潟

富士山

塩竈浦

雷峯落照

比良濱

難波江

難波[illegible]

[illegible]

三条中納言實任卿なと川さきの湯あるに
しとゝ茅舎大納言へゝ侍て雜波の月ゝ本下
て晴のゆきまてゝ
波のうへ乃月は掛りて雜波ゝあ小船賃や
茅舎大納言
雪如月ゝ小船なるゝ又ゝ舟をゝあて陳雜
冨小路大納言
波のうへ月掛りて雜波ゝあ小船や
宰相中将乃茅
十六夜の月ゝ小船なるゝ
左中将乃定

雜波ゝの所小船さゝりて
川庭ゝく土手ゝ
ほへゝ

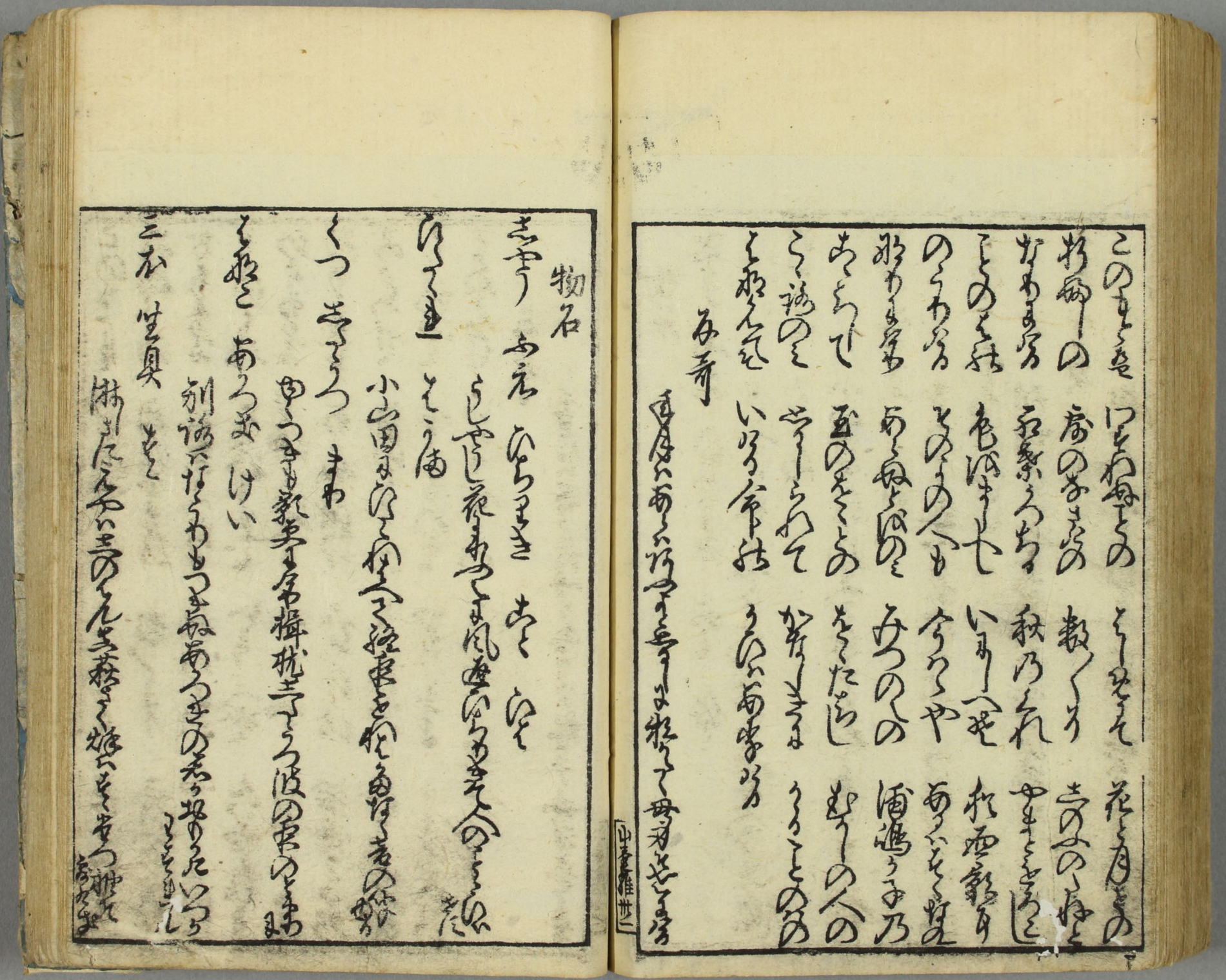
雜部

短歌

法花宗乃仏たちとなれる事

あさ日かげ　うき世のやとふ　いく世をか　山の寄りねを
てらしそめ　鶴のこゑ　いとけなく　宮かけわかし
ぬるかまそ　いそちの春の　ふるさとの　さとの
いろくを　あまもすなる　ものかは　ふるの
生いてく　八百よろぼも　人数人　里の
花の花を　ものさわふ　生つ毎に　山の
かをりにく　ちろの花　まもわさを　ゆく
あるわなを　ほろぼもの　かをりつ　あつの
ゆるの　仏の心世成　ものを　ちの
ゆるの　なるつきの　生ものと　生ものの

むもわまそ　法田のうちの　法ゆ濁り　生くあつの
花の雨　身のちまゆ　かけ一れ　かをりの
ちる年を　あるとはちの　身はなの　ものの
うまさちと　心ちまを　月はの　ものの
いなつ法　ひかわまと　このまに　ものの
ちちをは　ひかなと　いく数蘇　さくかなの
ひくまし　ちちをは　西へ出て　みのの
つもわきと　十といつ　わやきこか　いくも
ちちなく　うちわや　けとわいい　ほ
人乃出あ　花咲形へ乃　つ中をれ　つこ
事絶り　ちる川芝の　樵り花　みなの



ちるつき　ほか

たたまもの家のちるを月をのこすのいまは解
ちるほか　こうもん

秋風の吹ものちるやはるかぜのとまの庵の
ちるつゆ

月かげ山の風山の松の風ちるを月の松の
てらし　ひとけ

わとりてしたる滝の上の片枝折戸の
かねをつ

光りと裏東かげ月をすりかしまきの
ちまきく　ちまみ

村雨のふりてたちの後のはるかの
さくら　ほかろ

吉野山ちりてこそ人目ぬの雪のえだ
ひろつ　ちまみ

雲はひとつちらわかく思ふ若草のはるかなわ
ちるを

いつのまた雪まろる花紙をもてそとろ人のこい
ひろつ　ちまき

まわたと紙ひとつ　ちまき

草名十

あさがほ　ちまつ　あさがほ　ちまき　ちまみ　ちまん　わはん

木名十

つきかつら　ねずもち　ひさぎ　ぬるで　ちはやぶる　ゆずり　ゆずるは　ゆずりは　ゆずりぎ　ゆずりき　ゆずりぎ　ゆずりき　ゆずりぎ　ゆずりき

[illegible]

陸奥守藤氏家にて行脚中紀行千財者[illegible]

[illegible]

世中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

旋頭哥

松間紅葉

[illegible]

述懐

[illegible]

六地蔵の法楽し侍り六句の哥

月に入まで見いでぬ秋中夜の[illegible]

廻文哥

[illegible]

誹諧

[illegible]

加賀國に心願たりまに播磨國の三重に牧を新し
やまとにおうてちく三月盡まで養ふ
我身こそ今いかまわと思ふまで養ふ情ふかし
あるまくかなに成なりて
あるまくかなに成なりて高の巣の仔雛を五羽を作
東へくるに作時にあるに井とりてくるくむまねあり
さまくく
福重の朝の物うあるに耳も聞くあの音ぶ
月をうたく 侍をにはこうとうの月新まやをいる村時雨ぶ
詠遅をうたり
あるうたりにたりにはなりに戦約の老井のあ

くさ者に成安く
秋の車に成ぬ物はまた後世の色ぶ
物へ我はかくくさに重陽の夕の乃乃の西北
夕馬 河りよあ後に前はかくるおのもを色
狩猟 落ちのいはくさの陰平に成七位を剥つぶ
千鳥
うの毛はなる
月の面なる事新の逆はまたこれをの皮柴
手に乗 柴のく作あさはの舟にくはてあり
義 ねう河はうあそれむと玉の家をくとはのうは
ちうのをなるくはなくの成りわ作はこねてはまくくの
作らくはくくつうそ作ぶ

いとたかき車にのりて雲井をかけ
ぬるかなと
一重松を観音につくりまわらせ
中尊神の宝乃一重松今に佛のごとき名
念佛戸仰ぐ
世尊の佛の名にかけて月日とともに人や崇
連弁
池の水も甘露とかんじ
ひろふも中々へたてを長生
相とかるかの中ち那と
通ふ雨に雲も波も紙の名
信者の海に苦む侍法鳩
松をそ花のごとしと思ふ
さんず御 いけのうちわ

きのふも今日も雲を相ちる
ふかいなかもあきの面影
なりかへるこころにつる岩を
うまるみづからまことあ深る
ふるをとを聞きて春も相先
秋をを書のごとなりあ
中出るかの秋の東の月
きのふも今日いとあなの月や
世の位ゆるまで玉のつ村そ
今ぬいむ子に仏なれ辛
夕雲のそれ世に成なんて

関も閉もとまれてあの宝後
陣者に筆も後の面影
まるのごとなる鶴の色
月絵もあきの世にくま
筆なれ歌の人はあの名
春にて相殺の為後相て
人もこの花月もこの深名
子苗の田面に蛙に居ちて
未来の縁やあるなくらん
あさ夜のあるなる世に新なら
いなくのそれ身も一そ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

作りくはへさせ給へる加へ給へる車にてこそ
ありけれ　あるべき様にて
出でたるにはあるべきやうにて作らるべく
作り給へ
一長谷にてもてあそばれし
古きのこと社寺に参詣
たさせ給へる新しき
あるべきの人はまたなるべき
殿人いとなべき様にて心
新しき義の出やうにて
人有りたるおもしろ風にて

車にてかくまでかくまでなる
ことにてこそ
ありけれ　古の
ありけるの
ありけるの
ありけるの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中務少輔為景朝臣父三位為理卿家　法師雪[illegible]

なくちかくしこんはりて人とをとをとをとを上方城つたて経

乃料紙に法師[illegible]

むなりき[illegible]あり[illegible]

いさまとをあらと魚とのく[illegible]

つるまこのうらうとへてとをとを

あきこと[illegible]

春陸奥の乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

詠百首和歌　頻阿

春十五首

遥峯帯晩霞

[illegible]

殘雪更粘枝

[illegible]

春淺霜連夜

[illegible]

梅殘數點雪

[illegible]

清月上梅花

[illegible]

柳間黄鳥路

春江浪拍空

春深花始開

花開紅樹亂

花散風雨多

世事如何定

堅久落花多

花落樹猶香

頹簷掛古藤

歳時春猶少

春盡鳥聲中

夏十首

渡谷夏聞鶯

緑樹連村暗

山雲夏忽繁

松風五月寒

風樹鳴蟬咽

秋声帯雨荷

扇出雖風生竹

泉声到池盡

雨餘生晩涼

蛍入定僧袖

秋十五首

露気早知秋

雨洗殘暑

野色混秋光

天高雁横空

終夜看蚕色

稲花千嗅浪

江声入秋寺

月色一窓虚

江清月近人

雞声茅店月

山暁月初上

月向白波沉

遠山青入霧

風便敷砧聲

新霜染楓樹

冬十首

落葉無行路

木落見他山

人跡板橋霜

破林霜後月

山寒水欲冰

一鳥過寒水

清晨雪擁川

晴雪落長松

獨釣寒江雪

流年川晴度

悲十首

心知人不知

唯有淚痕多

三年不見書

淚盡腸欲斷

入愛到如今

花開更憶君

空閨殘燭夜

恨別鳥驚心

別後會難期
何處更相逢

旅十首

山路雲間没
江邊問船子
舟行夜已深

棹入黄芦浦
蒼苔滿山徑
御信寄胡雁
人行秋花中
路明殘月左

灘を入て寒

客愁双鬢覚

閑居十首

幽居有餘樂

盡日掩柴扉

秋月龍喧見

溪居絶是非

山中無曆日

鳥啼人不見

殘生隨白鷗

閑門留野鹿

身立能無事

竹徑通幽處

雜二十首

半山無夕陽

鐘聲雲外殘

水窮天盡頭

流水浸雲根

山光落釣舟

船与浪高低

風林無鳥宿

天色無情談

人間多苦人

世路山河險

清溪孤照影　松門やかろうて後は二尺餘の公四方の蔵せうこと花

松多寺不見　あるれく爾分汲こなを出乃敷ろ谷のうつれよ

遠漳収殘雨　ゆうき松ちゆ雲ちれんうこ安ろよ人ゆ見

落日沉沙頭　あの星ゆ雲れ四く雲の来ん天一村ゆ雲の見深

清風隔世塵　時上乃ゆこ雲ゆ行ゆ各彩かうよの行ゆ村て

衰鬢臨朝鏡　松ゆの時ゆ山ゆ村ゆて衰鬢の雲ゆ鏡ゆ

濕近夜疑雨　あゆこうこ雲ゆ村ゆ山ゆ十ゆ鏡ゆ雨ゆ毎ゆ近ん

驚立斜陽裏　ゆ雲ゆ村ゆ面ゆ立ゆ屋ゆ裏ゆ陽ゆ斜ゆ驚ゆ

山田級々高　ゆ雲ゆ酒ゆ山ゆ各ゆ級ゆ稲ゆ高ゆ山ゆ田ゆ

僧談悟亀空　ゆ雲ゆ山ゆ田ゆ僧ゆ談ゆ悟ゆ亀ゆ空ゆ

説法の花の下級ゆもかゆ村ゆ法ゆ成ゆ花ゆ説ゆ

詠百首和歌

春二十首

頓阿

巣中立春　神路山いくよ春の立かへるまの関水に春とまちあん

山霞　冨士の根の雪乃山つたとまちあへぬ深き霞に春乃来ぬ

春雪　みよしの山の春の雪やはるかなる山田の原に春乃来ぬ

朝鶯　春乃来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

沢若菜　春の来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

餘寒　春の来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

梅薫風　春の来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

行路柳　春の来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

春雨　春の来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

若草　消初しまの若草乃社まもなく緑さ深き春の中

春月　山の端乃月乃光も春乃来ぬ海原うらまて春乃月

帰鴈　久かたの空に越路の鴈乃声春乃来ぬ

初花　春乃来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

見花　春乃来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

惜花　一枝も折ぬ春の風乃吹ぬ

落花　春乃来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

離歌　春乃来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

松上藤　春乃来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

暮春　春乃来ぬ春の雪とは見えぬ哉ほのぼの明る鶯の声

夏十首

首夏
待郭公
聞郭公
早苗
溪五月雨
夏草
夏月
水邊蛍
夕立
六月祓

秋二十首

早秋
乞巧奠
荻風
荻露
蜩夕
初鳴
秋田
夜鹿
暁虫
山月

湖月
野月
海月
庭月
朝霧
朝時雨
重陽宴
杜紅葉
川紅葉
九月盡

冬十首

初冬時雨
寒草
落葉
冬月
淡雪
積雪
池氷
豊明節會
浮千鳥
歳暮

寄月恋

雲

雨

風

烟

煙

嶺

原

橋

湊

木

草

鳥

獣

虫

玉

鏡

枕

衣

弓

雑二十首

暁鶏

夜燈
峯松
里竹
磯叢
鴻鶴
思笹
江葦
浦舟
松山
岸苔
山家水

山家嵐
田家雨
旅行
旅宿
旅泊
海鳴生
寄社祝
丶日丶

志神宮一七箇日参籠之間詠之
延文三年四月七日

遠浦帰帆
洞庭秋月
平沙落雁
江天暮雪
潯湘夜雨
山市晴嵐
漁村夕照
遠寺晩鐘

新後拾遺雑下

題所

出雲国造家文庫

新續古今春上

夏

秋

恋二

一三

一一

一五

離別

羇旅

近衛殿御書

竊視此集之編可謂和歌之規範頭意於萬象之中盈風騒於千載之後誠是此道之遺爰也豈不斯文立茲乎不足嘆歎斯吟性情而已

ちはやふるかみよもきかぬあきのたつたのやまのもみぢは

右草菴集奥七

山菴家五十七

或曰頃阿草菴集今世學和歌者最可為龜鑑者也余於是留心於此集者蓋有年矣且又欲便披討立題分類聚類歌於其題之下東為一冊以為吾家之弊帚比日依制剛氏之求壽梓嗚呼雖有似畫蛇添足之拙庶乎亦初心學者之行遠升高之一助云尓

元禄八年龜集乙卯九月日　二口又玄子

草菴和歌集類題拾遺

元禄八乙亥年九月原板
寛延四辛未年孟春重刻
安永四乙未歳孟春再重刻

京師書肆　武村新兵衛
浪華書肆　加藤八兵衛
同　岩崎徳兵衛
同　増城長兵衛

板行出願

明治廿七年二月　久野庚子　觀

尾張